

レセプト交換による支部間差異の  
追加調査結果について

平成22年9月

社会保険診療報酬支払基金

## はじめに

- 「レセプト交換による支部間差異の調査結果」については、平成 22 年 2 月に行われた「今後の審査委員会に関するあり方検討会」で報告され、その内容については報告書に補論として記載され、一般に公表した。
- 同検討会では、3 支部の審査結果が異なる原因について明らかにするためには、更なる分析が必要であり、今後、個々のレセプトの査定箇所注目し、査定の一致状況、査定の事由及び査定内容等の相違等について分析することが求められた。

## I 今回調査の内容

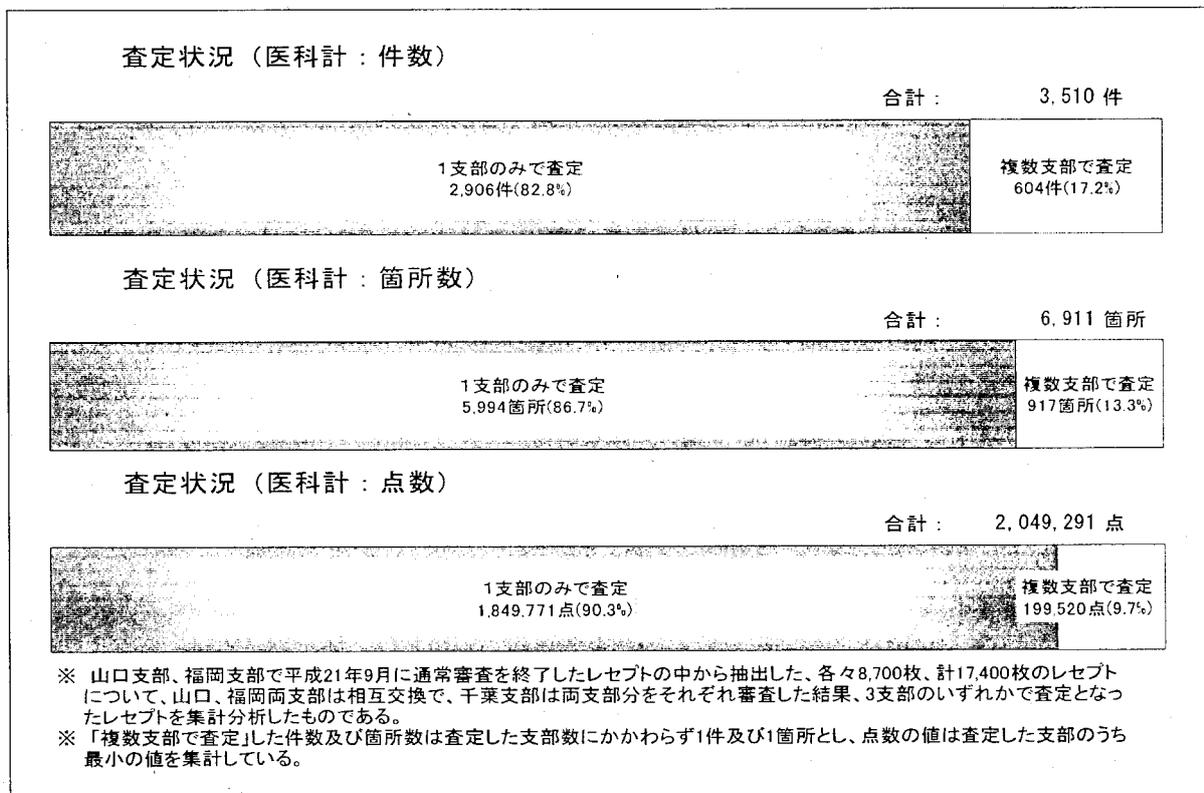
- 3 支部の審査結果が異なる原因を明らかにするために、
  - ① 査定された箇所数について診療科別、査定事由別、診療項目別に分析を行った。
  - ② さらに個々のレセプトの分析を進めるため、支部審査委員会が同一事例に対し「査定」した理由、「請求どおり」とした理由についてそれぞれ確認し、審査結果の相違について検証を行った。

## Ⅱ 調査結果

### 1 全体的な査定の状況

- 3支部の審査委員会で査定したレセプト（件数）、査定した箇所（箇所数）及び査定した点数の全体について、1支部のみで査定したものと、複数支部で査定したものについて調べてみると、「1支部のみで査定」が件数では82.8%、箇所数では86.7%、点数では90.3%であり、1支部のみで査定したものが多。（図1）

図1 レセプト交換調査の分析（件数・箇所数・点数）

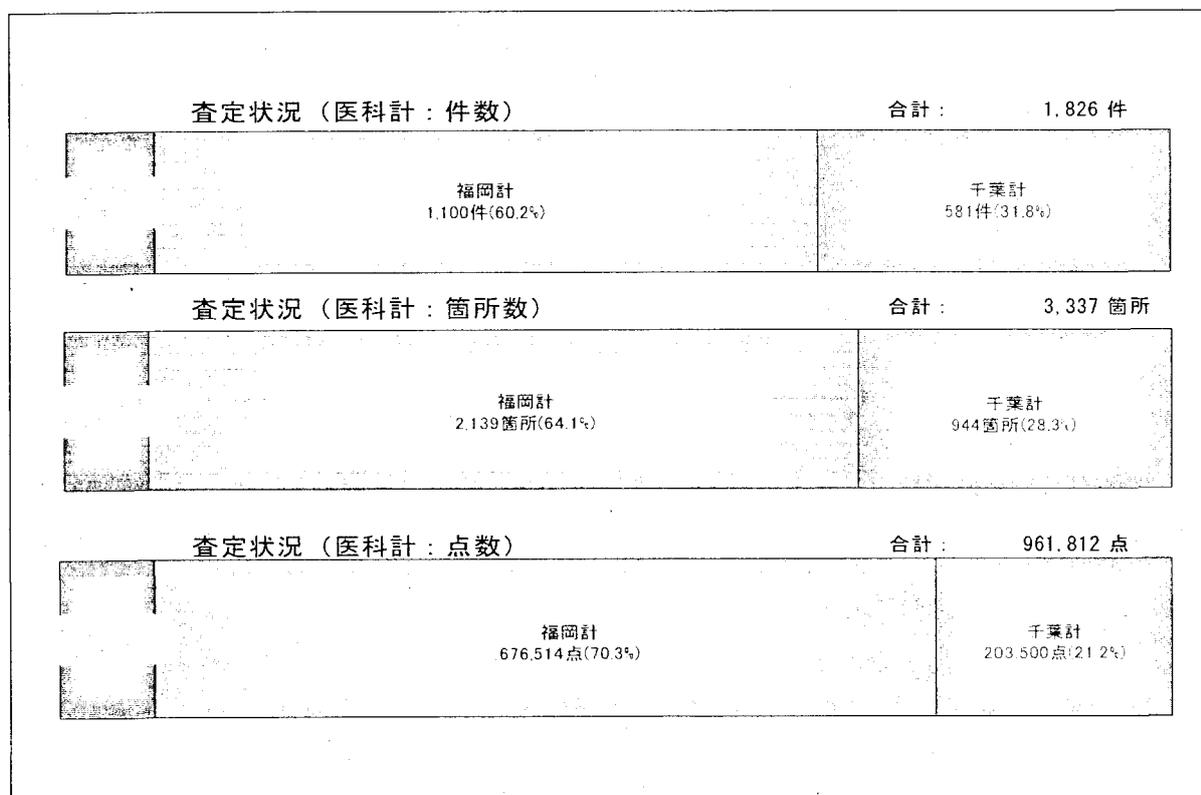


## 2 山口の医療機関のレセプト査定状況

- 山口の医療機関のレセプトについての査定全体に占める割合は、福岡支部が件数で 60.2%、箇所数で 64.1%、点数で 70.3%であり、山口支部は件数で 7.9%、箇所数で 7.6%、点数で 8.5%と、福岡支部は山口支部の約 8 倍という状況になっている。

千葉支部は、件数で 31.8%、箇所数で 28.3%、点数で 21.2%と福岡支部、山口支部の中間的な状況となっている。(図 2)

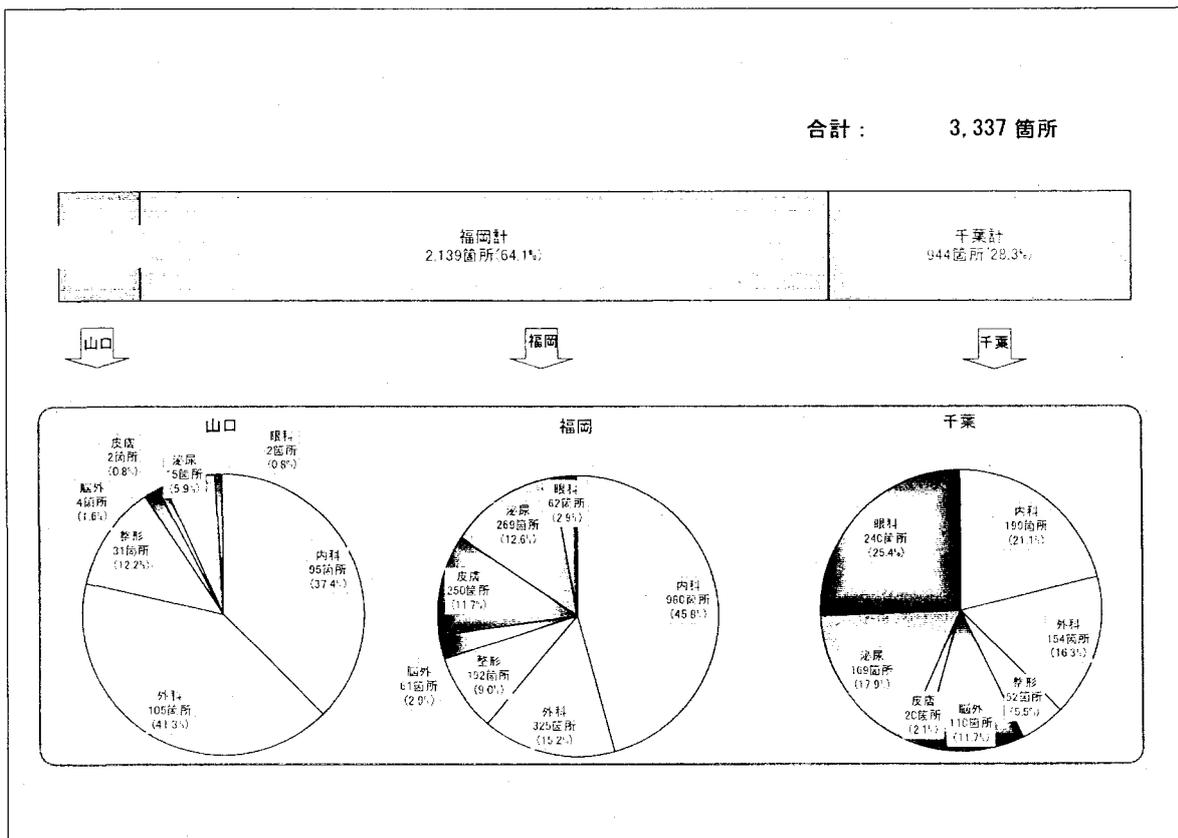
図 2 山口の医療機関のレセプト査定状況 (件数・箇所数・点数)



(診療科別の状況)

- 査定箇所数の状況を診療科別の割合で比較すると、母数の診療科別のレセプト件数に違いがあることに留意する必要があるが、福岡支部による査定は「内科」の割合が45.8%を占め、「外科」15.2%、「泌尿器科」12.6%、「皮膚科」11.7%と、「内科」以外はほぼ均等の割合となっている。
- 一方、山口支部による査定は福岡支部と比べ「外科」の割合が41.3%と高く、次に「内科」37.4%、逆に「泌尿器科」の割合が5.9%、「皮膚科」0.8%と低い状況となっている。(図3-1)

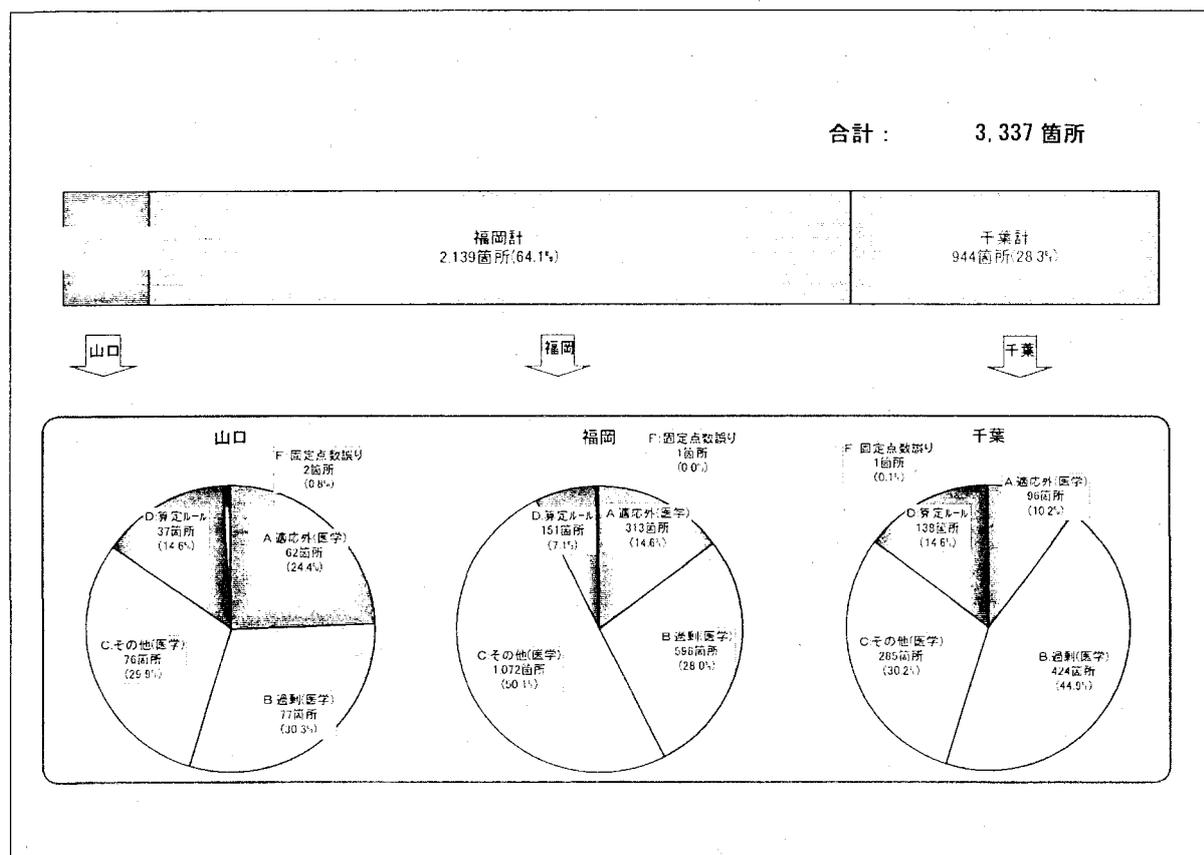
図3-1 山口の医療機関のレセプト査定状況(診療科別・箇所数)



(査定事由別の状況)

- 査定箇所数の状況を査定事由別の割合で比較すると、山口支部による査定は、「A 適応外」24.4%、「B 過剰」30.3%、「C その他(医学的判断)」29.9%と、査定事由A、B、C区分で全体の84.6%を占め、それぞれの区分がほぼ均等となっている。
- 一方、福岡支部では、「C その他(医学的判断)」の割合が50.1%と査定全体の約半数を占め、次いで「B 過剰」28.0%、「A 適応外」14.6%で、査定事由A、B、C区分で全体の92.7%を占めている。(図3-2)

図3-2 山口の医療機関のレセプト査定状況(査定事由別・箇所数)

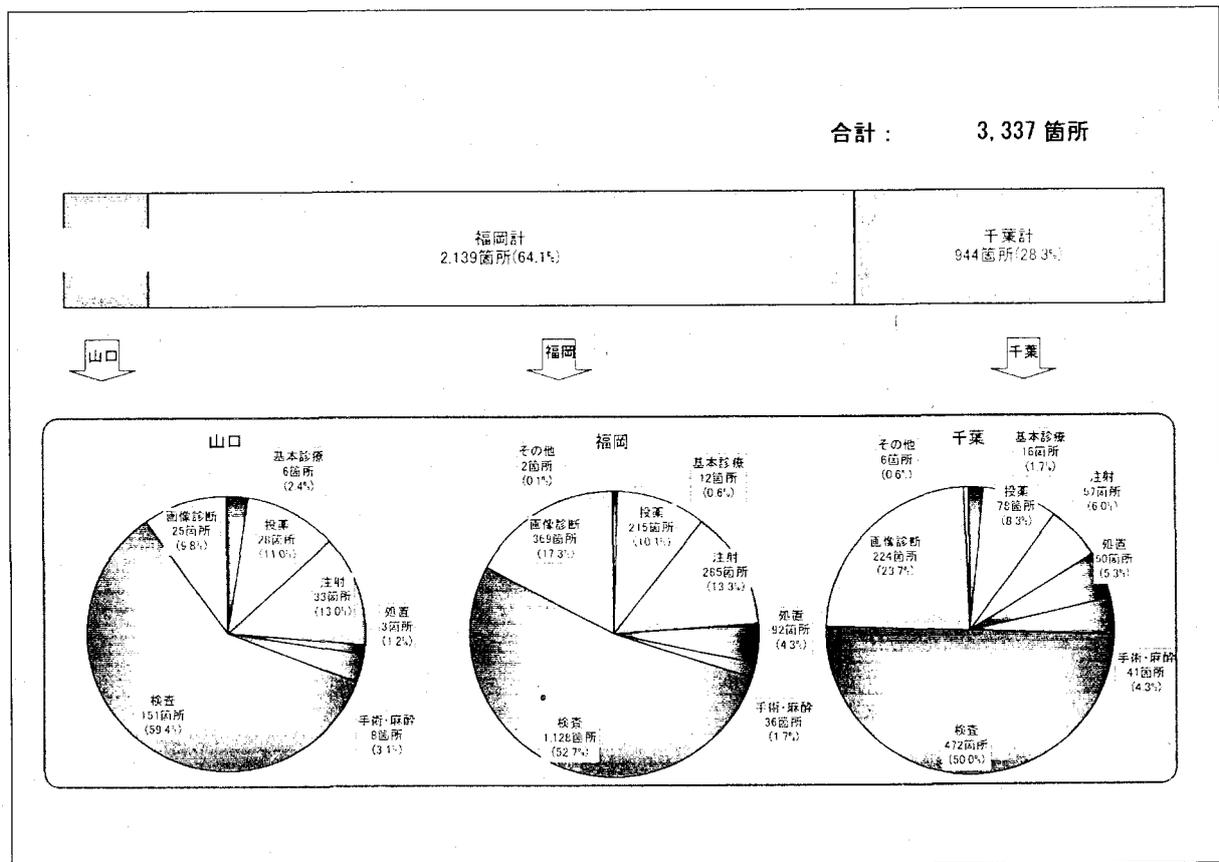


(診療項目別の状況)

○ 査定箇所数の状況を診療項目別の割合で比較すると、山口、福岡支部ともに項目別ではほぼ同様の割合で査定しているが、「画像診断」の割合は、福岡支部の17.3%に対し、山口支部は9.8%と低い状況となっている。

その他の診療行為については、ほぼ同様の割合で査定している。(図3-3)

図3-3 山口の医療機関のレセプト査定状況(診療項目別・箇所数)



### 3 福岡の医療機関のレセプト査定状況

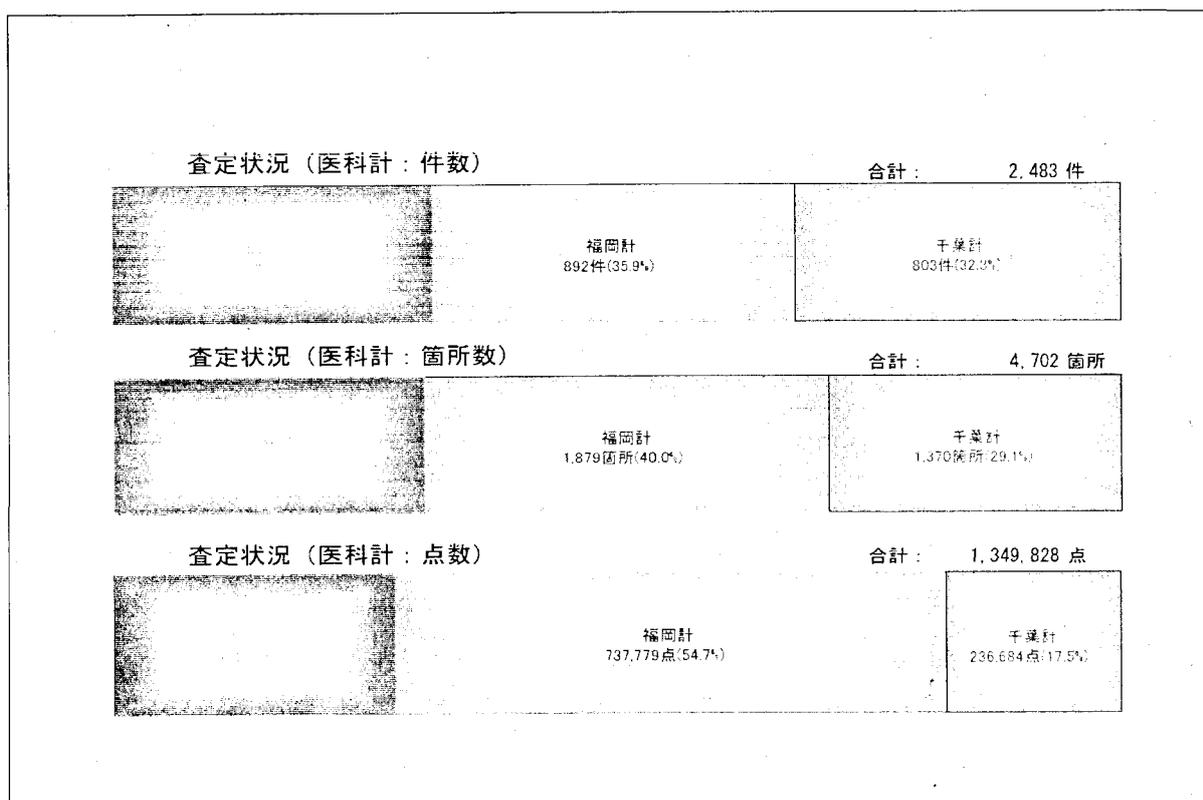
○ 福岡の医療機関のレセプトについての査定全体に占める割合は、査定件数で福岡支部 35.9%、山口支部 31.7%とそれほど差のない状況となっている。

査定箇所数では福岡支部 40.0%、山口支部 30.9%とこちらもあまり大きな差となっていない。

一方、査定点数は福岡支部 54.7%、山口支部 27.8%で、約 2 倍の差となっている。

なお、千葉支部はそれぞれ約 2 割～3 割を占める状況となっている。(図 4)

図 4 福岡の医療機関のレセプト査定状況(件数・箇所数・点数)

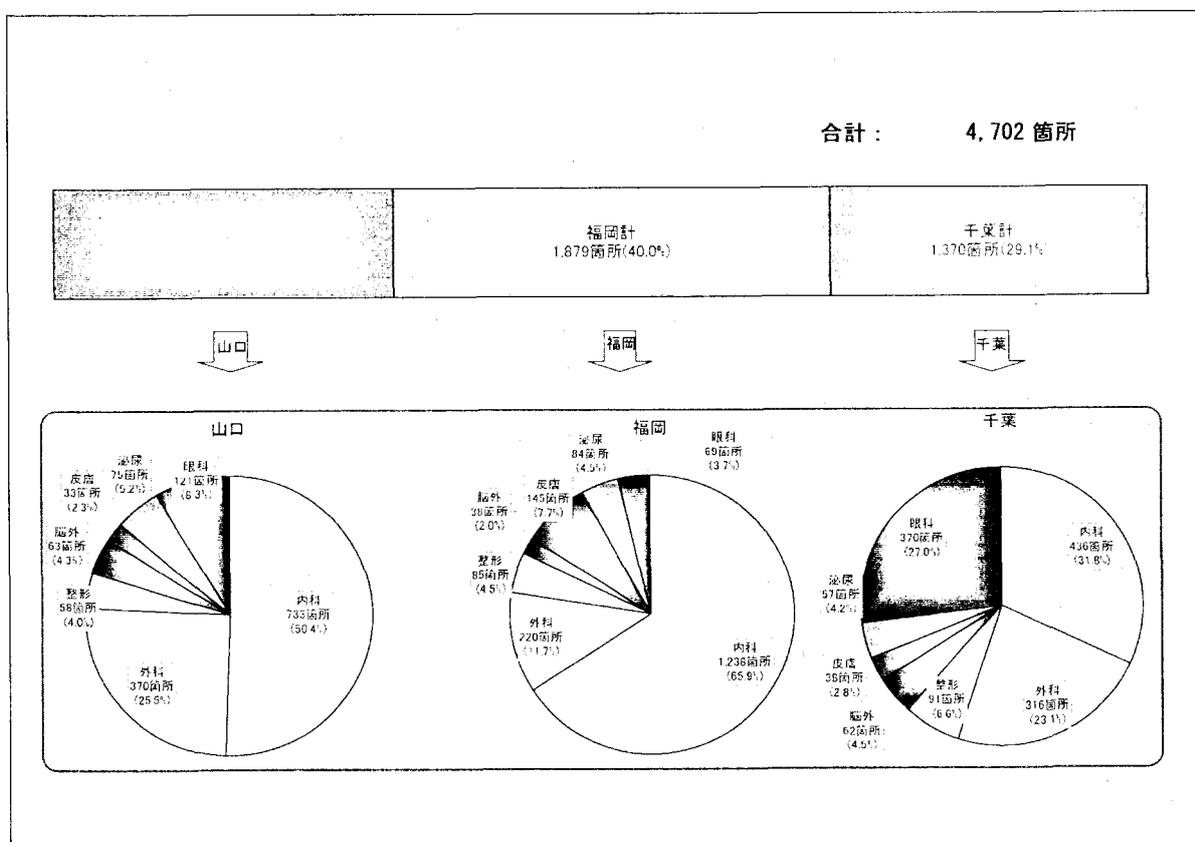


(診療科別の状況)

○ 査定箇所数の状況を診療科別の割合で比較すると、福岡支部による査定は「内科」の割合が 65.9%と高く、他の診療科では、「外科」を除くとそれほどの差はみられない。

山口支部による査定は、福岡支部と同様「内科」の査定割合が高く 50.4%であるが、「外科」が福岡支部の 11.7%と比べ 25.5%と高い。(図5-1)

図5-1 福岡の医療機関のレセプト査定状況(診療科別・箇所数)

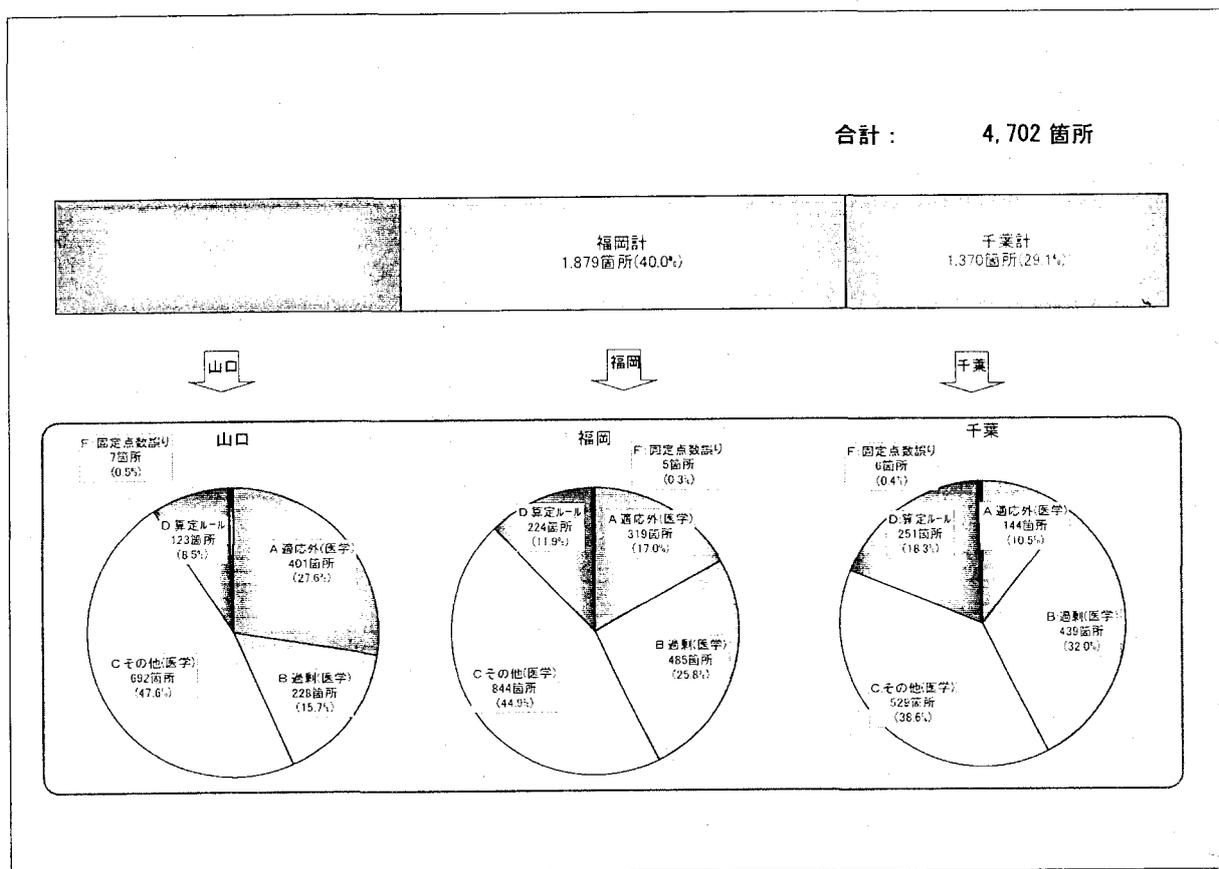


(査定事由別の状況)

- 査定箇所数の状況を査定事由別の割合で比較すると、「C その他(医学的判断)」の割合が福岡支部 44.9%、山口支部 47.6%と高くなっている。

両支部とも、査定事由A、B、C区分で全体の約90%を占めている。(図5-2)

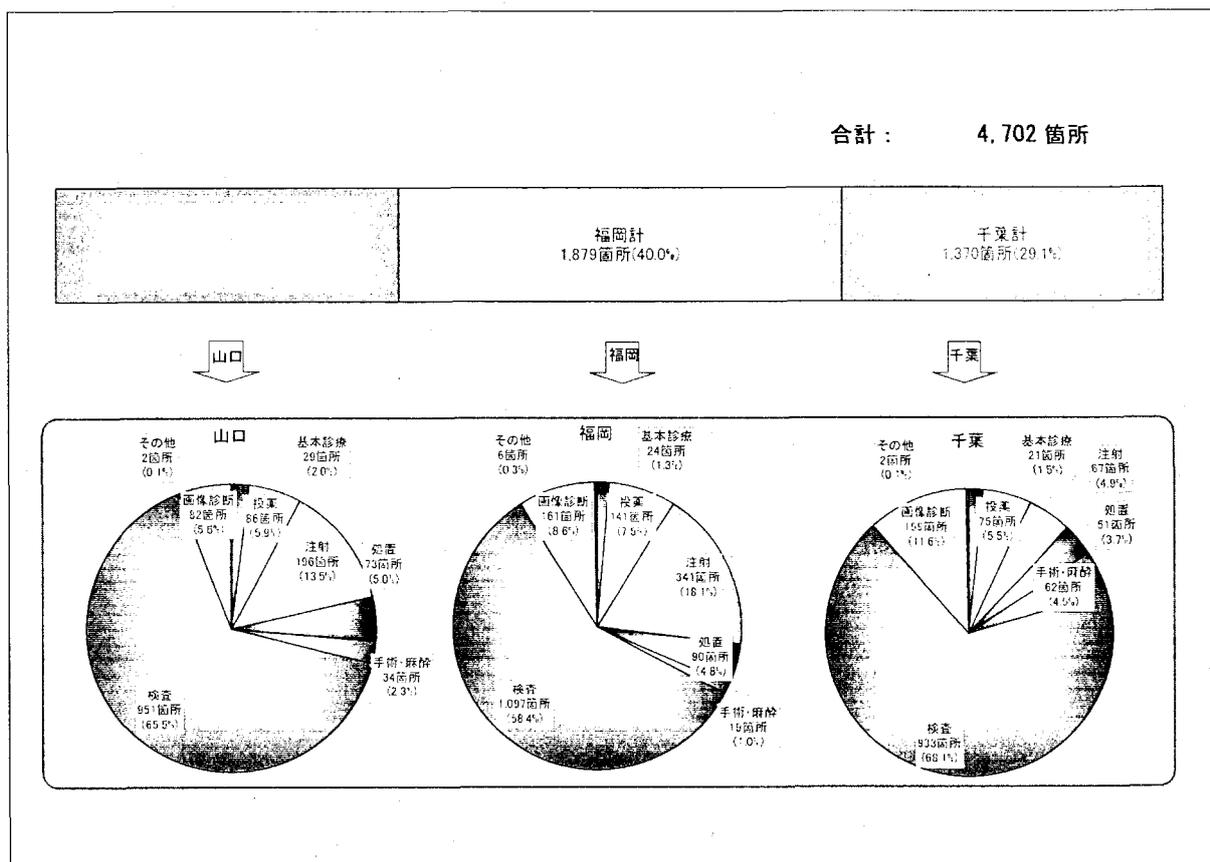
図5-2 福岡の医療機関のレセプト査定状況(査定事由別・箇所数)



(診療項目別の状況)

- 査定箇所数の状況を診療項目別の割合で比較すると、山口の医療機関のレセプトの場合と同様に「検査」の割合が、福岡支部 58.4%、山口支部 65.5%と両支部とも高く、その他の診療項目はほぼ同様の状況となっている。  
(図5-3)

図5-3 福岡の医療機関のレセプト査定状況(診療項目別・箇所数)



#### 4 査定理由と請求どおり理由の比較

- 支部間差異とは、同一事例について、支部間で審査委員会の判断が異なることであることから、山口支部、福岡支部のどちらかが査定した理由と、他方の支部が査定せず「請求どおり」とした理由について比較を行った。

##### (1) 査定理由別、請求どおり理由別の再調査

- 今回の調査を分析するにあたり、更に詳細な情報が必要であったことから、3支部に「査定」した理由と「請求どおり」とした理由を、別添資料のとおり10種類の理由に分け再調査を行った。
- 以下の調査結果の取りまとめに当たっては、「査定」した理由を「ルール等」、「レセプト個別」、「その他」の3区分に大別した。

##### ・「ルール等」

保険診療ルールに適合しないもの、支部内で審査の統一事項として明文化又は口頭で申し合わせたもの及び申し合わせはないが、通常そのように判断しているもの

- ① 「算定ルール」
- ② 「支部取決事項」
- ③ 「申し合わせ」
- ④ 「通常の審査」

・「レセプト個別」

レセプトの請求内容を個別に判断するもの

- ⑤ 「病名」
- ⑥ 「他の診療行為」
- ⑦ 「症状詳記等」
- ⑧ 「個別判断（その他）」

・「その他」

- ⑨ 「医療機関傾向」
- ⑩ 「その他」

○ また、「請求どおり」とした理由についても「算定ルール」を除き査定した理由と同様に4区分に大別した。

・「ルール等」

- ① 「支部取決事項」
- ② 「申し合わせ」
- ③ 「通常の審査」

・「レセプト個別」

- ④ 「病名」
- ⑤ 「他の診療行為」
- ⑥ 「症状詳記等」
- ⑦ 「個別判断（その他）」

・「その他」

- ⑧ 「原審査は誤り」
- ⑨ 「その他」

・「返戻」

- ⑩ 「返戻」

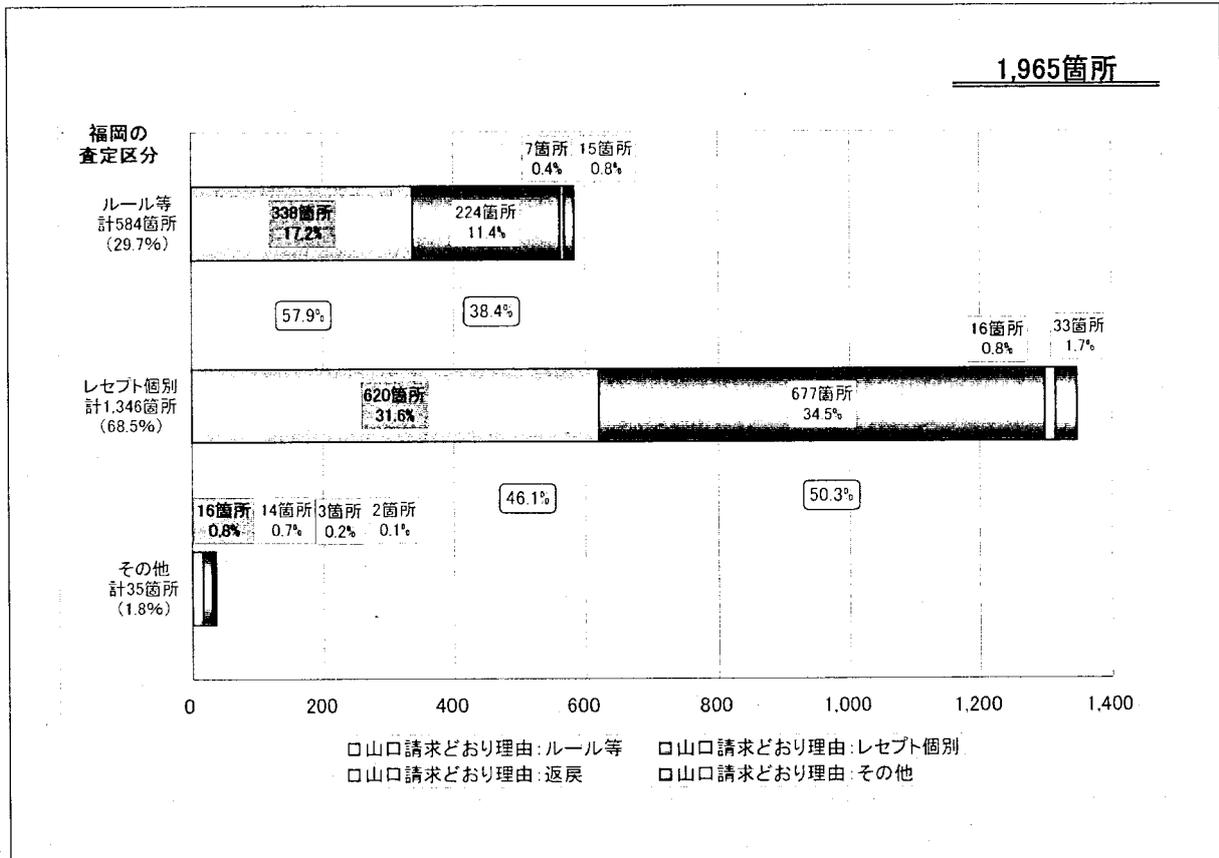
## (2) 山口の医療機関のレセプトに対する福岡支部の「査定理由」と山口支部の「請求どおり理由」の比較

### (全体の状況)

- 山口の医療機関のレセプトで福岡支部のみが査定した1,965箇所について、山口支部が「請求どおり」とした理由の状況を上記の区分に従って、福岡支部の査定した理由からみてみた。
- 福岡支部の査定箇所数の内訳では、「ルール等」の区分が584箇所で29.7%、「レセプト個別」の区分が1,346箇所で68.5%となっている。
- 「ルール等」の区分で福岡支部が査定した584箇所に対して山口支部が「請求どおり」とした理由では、「ルール等」の区分が338箇所、「ルール等」の区分全体の57.9%を占め、「レセプト個別」の区分は224箇所、「ルール等」の区分全体の38.4%となっている。
- 「レセプト個別」の区分で福岡支部が査定した1,346箇所に対して山口支部が「請求どおり」とした理由では、「レセプト個別」の区分が677箇所、「レセプト個別」の区分全体の50.3%を占め、「ルール等」の区分は620箇所、「レセプト個別」の区分全体の46.1%となっている。(図6)

図6 【山口の医療機関のレセプトで山口支部では「請求どおり」とされ、福岡支部のみで査定とされたものについて】

《福岡支部の査定に対する山口支部の「請求どおり」とした理由》



## (個別の査定理由と請求どおり理由の対応状況)

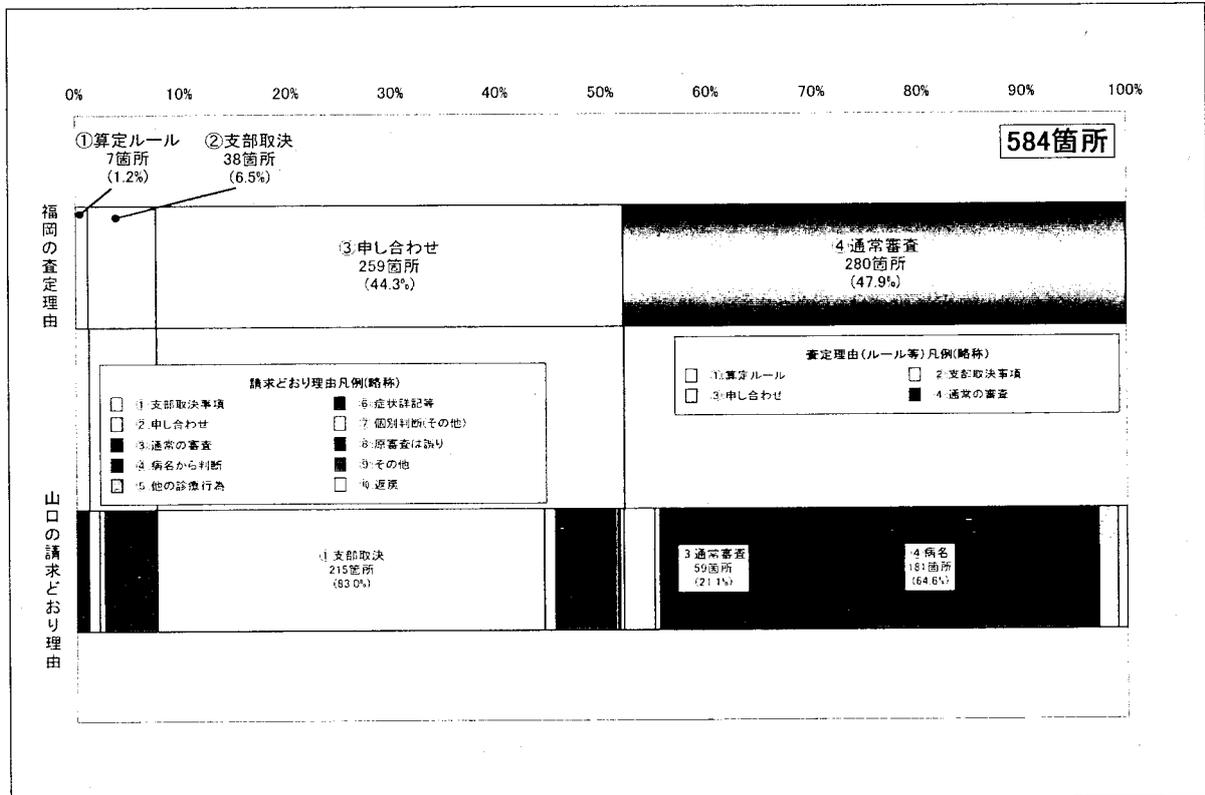
- 更に、福岡支部の査定した理由と山口支部の「請求どおり」とした理由について、「ルール等」の区分と「レセプト個別」の区分とに分けて比較してみた。

### ① ルール等の区分の対応状況

- 山口の医療機関のレセプトを福岡支部が「ルール等」の区分で査定した 584 箇所に対して、山口支部が「請求どおり」とした理由の状況をもてみた。
- 福岡支部の査定は、「通常の審査」の理由による査定割合が 47.9%、「申し合わせ」の理由による査定割合が 44.3%と、この二つで「ルール等」の区分の 9 割以上を占めている。
- 福岡支部が「申し合わせ」の理由により査定した 259 箇所に対して、山口支部が「支部取決事項」の理由で「請求どおり」としたものが 215 箇所、「申し合わせ」の理由による査定箇所全体の 83.0%となっている。
- 福岡支部が「通常の審査」の理由により査定した 280 箇所に対して、山口支部が「病名から判断」の理由で「請求どおり」としたものが 181 箇所、「通常の審査」の理由による査定箇所全体の 64.6%であった。(図 7 - 1)

図7-1 【山口の医療機関レセプトで山口支部では「請求どおり」とされ、  
福岡支部のみで査定とされたものについて】

《福岡支部で「ルール等」で査定した理由別内訳とそれに対する山口支部の「請求どおり」とした理由》



## ② レセプトの個別判断の区分の対応状況

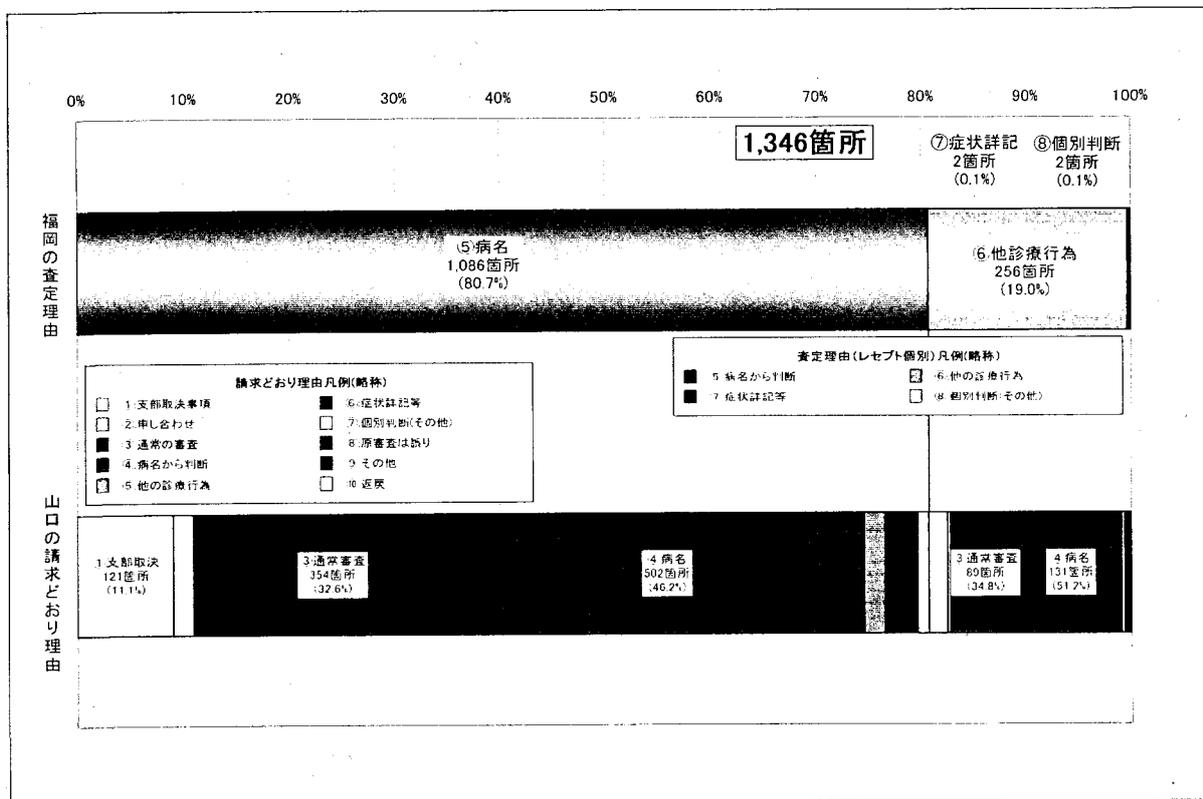
○ 次に、福岡支部が「レセプト個別」の区分で査定した1,346箇所に対して、山口支部が「請求どおり」とした理由の状況を見てみた。

○ 福岡支部の査定は、「病名から判断」の理由による査定割合が80.7%、「他の診療行為から判断」の理由による査定割合が19.0%と、この二つで「レセプト個別」の区分のほとんどを占めている。

- 福岡支部が「病名から判断」の理由により査定した1,086箇所に対して、山口支部が「病名から判断」の理由で「請求どおり」としたものが502箇所(46.2%)、次いで「通常審査」の理由で「請求どおり」としたものが354箇所(32.6%)となっている。(図7-2)

図7-2 【山口の医療機関のレセプトで山口支部では「請求どおり」とされ、福岡支部のみで査定とされたものについて】

《福岡支部で「レセプト個別判断」で査定した理由別内訳と山口支部の「請求どおり」とした理由》



### (3) 福岡の医療機関のレセプトに対する山口支部の「査定理由」と福岡支部の「請求どおり理由」の比較

#### (全体の状況)

- 山口の医療機関と同様に、福岡の医療機関のレセプトで山口支部のみが査定した 921 箇所について、福岡支部が「請求どおり」とした理由の状況を区分に従って、山口支部の査定した理由からみてみた。
- 山口支部の査定箇所数の内訳では、「ルール等」の区分が 312 箇所で 33.9%、「レセプト個別」の区分が 605 箇所で 65.7%となっている。
- 「ルール等」の区分で山口支部が査定した 312 箇所に対して福岡支部が「請求どおり」とした理由では、「レセプト個別」の区分は 170 箇所、「ルール等」の区分全体の 54.5%を占め、「ルール等」の区分が 86 箇所で全体の 27.6%となっている。
- 「レセプト個別」の区分で山口支部が査定した 605 箇所に対して福岡支部が「請求どおり」とした理由では、「レセプト個別」の区分が 396 箇所、「レセプト個別」の区分全体の 65.5%を占め、「ルール等」の区分は 99 箇所、「レセプト個別」の区分全体の 16.4%となっている。(図 8)

図 8 【福岡の医療機関のレセプトで福岡支部では「請求どおり」とされ、山口支部のみで査定とされたものについて】  
 《山口支部の査定に対する福岡支部の「請求どおり」とした理由》

